

2025 年度（第 49 回） 会員総会議題

日時：2025 年 9 月 6 日（土）17:10～17:55

議長：芹田敏夫会長

場所：大阪大学中之島センター

1. 入退会等について（芹田敏夫会長）【資料 1】
2. 会計報告【資料 2-1, 2-2, 2-3, 2-4】
 - (1) 2024 年度決算報告（芹田敏夫会長）
 - (2) 2024 年度監査報告（東：永田京子会計監事、西：山下忠康会計監事）
 - (3) 2025 年度補正予算（案）について（芹田敏夫会長）
 - (4) 2026 年度予算（案）について（芹田敏夫会長）
3. 学会賞について（柳瀬典由学会賞選考委員長）【資料 3】
4. 部会の実施報告（東：鈴木健嗣副会長、西：岡田克彦副会長）【資料 4】
5. 全国大会・部会の計画（芹田敏夫会長）
6. 国際交流委員会について（岩壺健太郎国際交流委員長）【資料 5】
7. 学会誌「経営財務研究」について（白須洋子編集委員長）【資料 6】
8. 事務局体制の移行について（芹田敏夫会長）【資料 7】
9. 学会規則の改正について（芹田敏夫会長）【資料 8】
10. 評議員選挙について（手嶋宣之選挙管理委員長）【資料 9】
11. その他

以上

資料 1

会員状況
(2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 20 日)

	正	学生	特別	名誉	シニア	合計
2024 年 9 月 1 日時点会員数	349	85	1	11	2	448
入会者数 (+)	16	15	0	0	0	31
退会者数 (-)	22	6	0	0	0	28
2025 年 8 月 20 日時点会員数	343	94	1	11	2	451

以上

日本経営財務研究学会 会計報告
2024年度予算 (2024.4.1—2025.3.31)

収入	支出
	(円)
前期繰越金	14,646,126
会費収入	3,500,000
著作権収入	50,000
ジャーナル販売収入	20,000
	第48回 (2024年度) 大会援助金
	2024年度部会費
	国際交流関連費
	学会誌編集費
	学会誌発行費
	第43巻
	第44巻
	名簿印刷費
	学会賞記念品
	通信費・消耗品費等
	ホームページ管理費
	本部事務局人件費
	次期繰越金
計	18,216,126
	計
	18,216,126

2024年度決算 (2024.4.1—2025.3.31)

収入	支出
	(円)
前期繰越金	14,646,126
会費収入	3,120,000
著作権収入	58,866
ジャーナル販売	17,890
部会費返納金	9,410
学会誌編集費返納金	99,780
2024年度西日本部会協賛金	200,000
普通預金利息	3,001
	第48回 (2024年度) 大会援助金
	2024年度部会費
	2024年度西日本部会協賛金
	国際交流関連費
	学会誌編集費
	学会誌発行費
	第43巻
	名簿印刷費
	学会賞記念品
	通信費・消耗品費等
	法律相談料
	ホームページ管理費
	本部事務局人件費
	次期繰越金
計	18,155,073
	計
	18,155,073

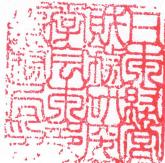
ご提出用

収支状況

	項目	詳細1	詳細2	金額	項目
支出	2024年度全国大会援助金			¥ 700,000	1
	2024年度部会費	東西各7万円		¥ 140,000	2
	2024年度西日本部会協賛金	京都大学からの協賛金		¥ 200,000	20
	国際交流関連費	報告者旅費+お土産代		¥ 477,940	3
	学会誌編集費			¥ 125,000	4
	学会誌発行費	第43巻		¥ 1,011,556	5
	名簿印刷費			¥ 42,097	6
	学会賞記念品			¥ 25,640	7
	通信費・消耗品費等	通信費	会費請求郵送代	¥ 77,400	8
		通信費	会費再請求郵送代	¥ 17,380	9
		通信費	ジャーナル郵送費	¥ 1,890	10
		通信費	郵便、切手代	¥ 3,760	11
		消耗品	文具等	¥ 35,661	12
		交通費	タクシ一代	¥ 3,600	13
		データ管理費	Dropbox年間契約等	¥ 15,840	14
		振込手数料		¥ 2,310	15
			小計	¥ 157,841	
	法律相談料	名称使用に関する相談		¥ 12,645	21
	ホームページ管理費	ホームページ管理謝金		¥ 100,000	16
		サーバー代		¥ 8,316	17
			小計	¥ 108,316	
	本部事務局人件費	サポートスタッフ謝金		¥ 480,000	18
		臨時スタッフ謝金		¥ 15,000	19
			小計	¥ 495,000	
	合計			¥ 3,496,035	
収入	会費収入			¥ 3,120,000	25
	著作権収入			¥ 58,866	26
	ジャーナル販売			¥ 17,890	27
	部会費返納金			¥ 9,410	28
	学会誌編集費返納金			¥ 99,780	29
	2024年度西日本部会協賛金			¥ 200,000	30
	普通預金利息			¥ 3,001	31
	合計			¥ 3,508,947	

収入一支出 = ¥ 12,912

期末残高(2025年3月31日) ゆうちょ銀行 ¥8,766,488
 SMBC ¥5,758,561
 手許現金 ¥133,989
 計 ¥14,659,038



日本経営財務研究学会・本部事務局
 2025年4月1日

●監査報告
 所定の手続きによる監査の結果、上記の会計報告の内容は適正であると認められる。

2025年 4月 18日
 会計監事 水口 宏子 印
 (自筆署名)

ご提出用

収支状況

	項目	詳細1	詳細2	金額	項目
支出	2024年度全国大会援助金			¥ 700,000	1
	2024年度部会費	東西各7万円		¥ 140,000	2
	2024年度西日本部会協賛金	京都大学からの協賛金		¥ 200,000	20
	国際交流関連費	報告者旅費+お土産代		¥ 477,940	3
	学会誌編集費			¥ 125,000	4
	学会誌発行費	第43巻		¥ 1,011,556	5
	名簿印刷費			¥ 42,097	6
	学会賞記念品			¥ 25,640	7
	通信費・消耗品費等	通信費	会費請求郵送代	¥ 77,400	8
		通信費	会費再請求郵送代	¥ 17,380	9
		通信費	ジャーナル郵送費	¥ 1,890	10
		通信費	郵便、切手代	¥ 3,760	11
		消耗品	文具等	¥ 35,661	12
		交通費	タクシ一代	¥ 3,600	13
		データ管理費	Dropbox年間契約等	¥ 15,840	14
		振込手数料		¥ 2,310	15
			小計	¥ 157,841	
	法律相談料	名称使用に関する相談		¥ 12,645	21
	ホームページ管理費	ホームページ管理謝金		¥ 100,000	16
		サーバー代		¥ 8,316	17
			小計	¥ 108,316	
	本部事務局人件費	サポートスタッフ謝金		¥ 480,000	18
		臨時スタッフ謝金		¥ 15,000	19
			小計	¥ 495,000	
	合計			¥ 3,496,035	
収入	会費収入			¥ 3,120,000	25
	著作権収入			¥ 58,866	26
	ジャーナル販売			¥ 17,890	27
	部会費返納金			¥ 9,410	28
	学会誌編集費返納金			¥ 99,780	29
	2024年度西日本部会協賛金			¥ 200,000	30
	普通預金利息			¥ 3,001	31
	合計			¥ 3,508,947	

収入一支出 = ¥ 12,912

期末残高(2025年3月31日) ゆうちょ銀行 ¥8,766,488
 SMBC ¥5,758,561
 手許現金 ¥133,989
 計 ¥14,659,038



日本経営財務研究学会・本部事務局
 2025年4月1日

●監査報告
 所定の手続きによる監査の結果、上記の会計報告の内容は適正であると認められる。

2025年 4月 12日
 会計監事 山下忠康 (印)
 (自筆署名)

資料2-3

2025年度予算 (2025.4.1—2026.3.31) * 2024年度全国大会会員総会にて承認済

収入	支出	
	(円)	(円)
前期繰越金	13,794,570	第49回（2025年度）大会援助金 700,000
会費収入	3,500,000	2025年度部会費 140,000
著作権収入	50,000	国際交流関連費 500,000
ジャーナル販売収入	20,000	学会誌編集費 100,000
		学会誌発行費
		第45巻 1,000,000
		名簿印刷費 100,000
		学会賞記念品 20,000
		通信費・消耗品費等 300,000
		ホームページ管理費 100,000
		本部事務局人件費 500,000
		次期繰越金 13,904,570
計	17,364,570	計 17,364,570

2025年度補正予算案 (2025.4.1—2026.3.31)

収入	支出	
	(円)	(円)
前期繰越金	14,659,038	第49回（2025年度）大会援助金 700,000
会費収入	3,500,000	2025年度部会費 140,000
著作権収入	50,000	国際交流関連費 500,000
ジャーナル販売収入	20,000	学会誌編集費 100,000
		学会誌発行費
		第44巻 955,353
		第45巻 1,000,000
		名簿印刷費 0
		学会賞記念品 20,000
		通信費・消耗品費等 300,000
		ホームページ管理費 100,000
		本部事務局人件費 500,000
		選挙業務委託費 150,000
		次期繰越金 13,763,685
計	18,229,038	計 18,229,038

資料2-4

2026年度予算案 (2026.4.1—2027.3.31)

収入	(円)	支出	(円)
前期繰越金	13,763,685	第50回（2026年度）大会援助金	700,000
会費収入	3,500,000	2026年度部会費	140,000
著作権収入	50,000	国際交流関連費	450,000
ジャーナル販売収入	20,000	学会誌編集費	100,000
		学会誌発行費	
		第46巻	1,000,000
		名簿印刷費	100,000
		学会賞記念品	20,000
		通信費・消耗品費等	300,000
		事務外部委託費	1,600,000
		次期繰越金	12,923,685
計	17,333,685	計	17,333,685

2025 年 7 月 8 日提出

2025 年 8 月 20 日 事務局にて抜粋

2025 年度 日本経営財務研究学会 学会賞選考結果

会長 芹田 敏夫 先生

学会賞選考委員会

柳瀬 典由 (委員長)

村宮 克彦

1. 選考結果

本選考委員会では、選考対象となった以下の研究者・論文について慎重に審議・評価した結果、学会賞に値しないと判断した。

2. 選考経緯

本年度は締切日までに上記論文 1 編が他薦の形式で学会事務局に応募が有った。このため著者が学会賞規定を充たすことを確認した上で、選考委員会は、当該論文について審査を開始した。なお、選考にあたって、2 名の学会賞選考委員に加え、内田交謹先生（早稲田大学）を外部審査委員として選定した。以下に審査委員会としての講評を示す。

3. 審査講評

本論文に関して一定の学術的貢献・実務的示唆は認められ、一部で受賞を推す声もあったものの、仮説構築・理論的動機の弱さ、実証分析上の設計の不備、インプリケーションの曖昧さなど、複数の重要な問題点も指摘された。これらを総合的に勘案した結果、選考委員会としては、本論文を経営財務研究学会学会賞の受賞対象とはしないことと決定した。



2025年3月10日

日本経営財務研究学会 学会賞(2025年度)・論文募集のお知らせ

学会賞は研究奨励賞の意味を持つものであり、この趣旨に即して、審査対象は原則として40歳以下の会員が、2024年1月1日から同年12月31日までの間に、当学会機関誌『経営財務研究』あるいはその他に発表した公刊論文または公刊した著作とします。

応募は、自薦・他薦を問いません。また選考委員会も該当論文・著作の情報収集に努めるものとします。締め切りは、2025年4月末です。締め切り後、隨時、審査委員会を開催し、次回の全国大会において発表(授賞)を行う予定です。

記

●審査対象

1. 2024年1月1日から同年12月31日までに発表された、40歳以下の会員の著作(著書・論文)。
2. 共著の場合、著者全員が40歳以下であることが条件です。著者全員が会員でなくとも構いませんが、学会賞の対象者は著者の中で会員である者に限定されますので、ご注意ください。

●応募方法

3. 学会事務局に論文のPDFファイルをメールで送信してください(jfa-office@jfa.main.jp)。著作が図書の場合および論文のPDFがない場合は、事務局までご連絡ください。
4. 他薦の場合も、原則として上記に準じてください。また、本人の同意を得ていない場合には、その旨をお知らせ下さい。選考(審査)に入る段階で、選考委員会より、本人に対して応募の意志を確認いたします。
5. 締め切りは、2025年4月30日(水)です。

●関連事項

6. 受賞者には賞状と記念楯を贈呈します。
7. 応募者は本学会の会員に限ります。応募に関するお問い合わせは、本部事務局あてに、電子メールでお願いします(jfa-office@jfa.main.jp)。
8. 選考委員会は、必要な場合には第三者の助言を求めることがあります。
9. 審査の公正を期するため、選考段階では審査内容に関する個別の問い合わせには一切応じません。
10. 選考制度の運用に支障をきたす事態(応募が極端に少ない場合など)が生じた場合には、選考委員会の責任において適切な対応をさせていただく場合があることをご了承下さい。
11. 本案内を含め、必要な情報は、学会ホームページに掲載しますので、ご覧ください(<http://jfa.main.jp/>)。



学会賞選考委員長 柳瀬 典由

資料4

2025年9月6日

東日本部会報告

2025年3月15日、武蔵大学江古田キャンパスにおいて東日本部会を開催いたしました。本部会は、実行委員長を武蔵大学の中嶋幹先生、実行委員を同大学の海老原崇先生および学習院大学の鈴木が務めました。

当日は、以下の3名の方々にご報告いただきました（報告35分、討論15分、全体質疑10分）。

第1報告（13:30～14:30）

報告者：佐々木隆文氏（中央大学）

報告題目：*Corporate Diversification and Environmental Performance*

討論者：内田交謹氏（早稲田大学）

第2報告（14:40～15:40）

報告者：鈴木康介氏（東京都立大学大学院）

報告題目：商標権と企業価値の関係性の分析

討論者：海老原崇氏（武蔵大学）

第3報告（15:50～16:50）

報告者：杉浦康之氏（日興リサーチセンター）

報告題目：経営者は何を語るのか 一統合報告書におけるトップメッセージのトピックとその利用可能性

討論者：久保克行氏（早稲田大学）

各報告では活発な議論が交わされ、参加者の理解を深める大変有意義な機会となりました。

部会終了後は、武蔵大学近くの「わさび」にて懇親会を開催し、盛会のうちに終了いたしました。開催を快くお引き受けいただき、ご準備いただきました中嶋先生、海老原先生をはじめ、ご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

西日本部会のご報告

実行委員長：山田和郎先生

日程：2025年3月8日(土) 13:00-18:00

場所：北ビワコホテル グラツィエ (滋賀県長浜市)

協賛：

- 京都大学経営管理大学院 日本M&AセンターHD 寄付講座様,
- バフェットコード株式会社様

第1セッション（敬称略）

13:00 報告1 IFRS任意適用のリアル・エフェクト—日本企業の投資効率性に対する影響—

報告者: 小寺俊輔 [大阪公立大学大学院]

討論者: 榎本正博 [神戸大学]

13:45 報告2 グリーンウォッシングとサステナビリティレポートの可読性

報告者: 島村 拓弥 [九州大学]

討論者: 岡田克彦 [関西学院大学]

第2セッション

14:45 報告3 投資信託市場の顕著性バイアスとスマートマネー効果

報告者: 岩壺健太郎 [神戸大学]

討論者: 阿萬 弘行 [関西学院大学]

15:30 報告4 Market Response to Non-Mandatory Governance Initiatives: Evidence from the TSE's 2023 PBR Improvement Request

報告者: 中筋萌 [関西学院大学]

討論者: 大越 覚史 [京都大学]

第3セッション

16:30 報告5 IPO企業の投資

報告者: 深谷玲子 [京都大学]

討論者: 范 鵬達 [立命館大学]

17:15 報告6 取締役会ネットワークが企業のパフォーマンスに与える影響

報告者: 原田 春貴 [大阪公立大学]

討論者: 胥 鵬 [法政大学]

以上, 6 件の発表があり, 非常に活発な議論が交わされた.

資料 5

国際交流委員会報告 2025.8

国際交流委員長
岩壺 健太郎

1. Three Asian Countries Finance Conference のプログラムの決定

Morning Session (9:30–11:30)

Session 1: AI, Climate and NFT

Chair: Kentaro Iwatubo (Kobe University)

No. 1 | 9:30–10:10

Title: Sentiment, Narrative Disclosures, and Stock Returns: Evidence from LLM Analysis of Japanese 10-Ks

Presenter: Katsuhiko Okada (Kwansei Gakuin University)

Co-authors: Moe Nakasuji, Yasutomo Tsukioka, and Takahiro Yamasaki

Discussant: Dongyup Lee (Kookmin University)

No. 2 | 10:10–10:50

Title: The Dual Roles of AI in Corporate Decarbonization

Presenter: Shu-Cing Peng (National Central University)

Co-authors: Yan-Shing Chen and Sheng-Syan Chen

Discussant: Yoko Shirasu (Aoyama Gakuin University)

No. 3 | 10:50–11:30

Title: Is Love Blind? AI-Powered Trading with Emotional Dividends

Presenter: De-Rong Kong (Yuan Ze University)

Co-authors: Valeria Fedyk and Daniel Rabetti

Discussant: Katsuhiko Okada (Kwansei Gakuin University)

Early Afternoon Session (12:30–14:30)

Session 2: Corporate Finance

Chair: Jaewon Choi (Seoul National University)

No. 1 | 12:30–13:10

Title: Why Can't the Market Add and Subtract? Evidence from Central Firms in Business Groups

Presenter: Shu-Feng Wang (Ajou University)

Co-authors: Woojin Kim

Discussant: Konari Uchida (Waseda University)

No. 2 | 13:10–13:50

Title: Do Dividend Changes Predict Future Profitability?

Presenter: Sunyoung Han (Korea SMEs & Startups Institute)

Co-authors: Raesoo Park

Discussant: Yao-Ming Chiang (National Taiwan University)

No. 3 | 13:50–14:30

Title: What Drives Firms to Adopt Anti-hedging Policies? The Role of Managerial Hedging Costs

Presenter: Hung-Kun Chen (National Taipei University of Technology)

Co-authors: Tse-Chun Lin

Discussant: Junho Oh (Hankook University of Foreign Studies)

Late Afternoon Session (14:50–16:50)

Session 3: Wall Street and Tokyo Stock Exchange

Chair: Yao-Ming Chiang (National Taiwan University)

No. 1 | 14:50–15:3

Title: Intensity Bursts in WallStreetBets Discussion and Stock Markets Trading

Presenter: Yoichi Otsubo (Kobe University)

Co-authors: Siliang Wei and Ser-Huang Poon

Discussant: Bonha Koo (Chungnam National University)

No. 2 | 15:30–16:10

Title: Data Scientists on Wall Street

Presenter: Chanik Jo (Chinese University of Hong Kong)

Co-authors: Ling Cen, Yanru Han, and Bing Han

Discussant: Shu-Cing Peng (National Taiwan University)

No. 3 | 16:10–16:50

Title: Effectiveness of Trading Pauses: Evidence from the Tokyo Stock Exchange

Presenter: Akitada Kasahara (The University of Osaka)

Co-authors: Masahiro Yamada

Discussant: De-Rong Kong (Yuan Ze University)

2. 第1回 Young Researcher Award の決定

受賞者 笠原 晃恭（大阪大学）

論文タイトル “Effectiveness of Trading Pauses: Evidence from the Tokyo Stock Exchange”

授賞理由

本賞は「東京証券取引所の取引停止措置の効果」に関する実証研究に対して授与する。本論文は東京証券取引所の「特別気配」制度を利用して、その取引停止措置の効果について因果推論に基づく厳密な検証を行っている。ティックデータと自然実験の組み合わせによる因果関係の識別は極めて優れており、方法論的にも高く評価される。本研究の成果として、取引停止措置が事後的なボラティリティの抑制、流動性の改善、価格の効率性向上といった重要な効果をもたらすことを明らかにしており、学術的知見としての意義はもちろん、実務的インプリケーションにも富んでいる。研究の新規性、制度設計を活かしたユニークなセッティング、説得力のある分析、そして学界・実務界の双方への高い貢献度に鑑み、本研究はJFAを代表するにふさわしい極めて優れた業績であると評価できる。以上の理由から、本研究に対し、第1回 Young Researcher Award を授与する。

以上

資料 6

学会誌『経営財務研究』

1. 査読付論文等



●掲載予定論文（8月8日現在）

- ・財務データとコーポレート・ガバナンス評価指標を用いた企業不祥事の分析:企業不祥事を予測できるのか（徐新衡・根本直子）【先行公開全文】
- ・企業の気候変動リスクとインプライド資本コストに関する実証研究（浅野礼美子・佐々木隆文）【先行公開全文】
- ・日本における株主アクティビズムの企業業績への影響（タイ清義・三和裕美子）【先行公開全文】

●第44巻（2024年12月）

- ・COVID19と機関投資家行動：機械学習手法による検証（山田拓弥・木村遙介・中田和秀・井上光太郎, JJF00337）
- ・経営者の自信過剰と配当政策（寧東来, JJF00338）
- ・地域銀行のビジネスモデル転換と金融危機時に顕在化するリスク（石井一成, JJF00339）

2. 規程改正

掲載論文の幅を広げるために、査読に関わらない論文等を掲載していくこととした。寄稿論文及び書評を本誌に掲載していくこととし、規程改正を行ったので報告します。学会のWebページに公表済。

【投稿・執筆規程】

【重要なお知らせ】

学会誌「経営財務研究」の旧「投稿規程」「執筆要領」は2018年3月31日に廃止され、代わって、同年4月1日から新「投稿・執筆規程」が施行されました。2025年4月22日には最新の改正として「附則2」が新設されました。

（改正後）

附則2. 編集委員会の依頼に基づき掲載される寄稿論文、書評等については、投稿論文とは区別し、投稿要領の適用対象外とする。ただし、投稿要領の著作権等の定めは、これらにも準用するものとする。



3. 非査読論文等

以下の3編を（原稿依頼済み）、2025年12月号に掲載予定。

●寄稿論文：執筆者、首藤昭信（東京大学）、木村遙介（東京科学大学）

「AI（Artificial Intelligence）／自然言語処理（Natural Language Processing）」（仮）

●書評：評者、保田 隆明（慶應義塾大学）

書籍、砂川 伸幸・山口 敦之『サステナビリティとコーポレートファイナンス』日経BP

評者、山本 達司（同志社大学）

書籍、奈良 沙織・野間 幹晴『業績予想の実証分析：企業行動とアナリストを中心に』中央経済社

以上

編集長 白須洋子
青山学院大学経済学部

資料 7

事務局体制の移行について

会長 芹田敏夫

1) 経緯

- ・事務局は、現在まで長年にわたり、神戸大学経営学部が担ってきた。
- ・2025年4月に事務局のお一人が辞任されたことで、今後継続することが困難になった。
- ・その対応について、2025年4月以降、会長・副会長・評議員会・事務局で対応策の協議を続けてきた。

2) 移行の内容

- ・事務局業務は、2025年9月以降、評議員会で分担して担っていく。
- ・事務局業務の一部は、予算の範囲内で、外部業者に委託する。
- ・2026年3月までは、現在の事務局が事務局業務のサポートを行い、それまでに引き継ぎを完了する。
- ・移行の詳細は、2025年9月に発足する新しい評議員会で決定する。

移行における役割分担例)

- ・総務担当：会長、副会長、評議員数名
　　全体の差配役、メール対応、会員名簿管理など
- ・会計担当：評議員を含む数名
- ・学会誌担当：編集委員会
- ・国際交流：国際交流委員会
- ・ウェブサイト担当：会長、副会長
- ・評議員選挙：選挙管理委員会（評議員選挙の年のみ）

以上

資料 8

学会規則改正提案

会長 芹田敏夫

2025 年 6 月 24 日の臨時評議員会での協議に基づいて、
以下のように学会規則の改正案を提案します。

箇所	現行	改正案
第 9 条	本会に次の役員をおく。役員は正会員に限る。役員の任期は <u>3年</u> とし、連続 3 選を認めない。	本会に次の役員をおく。役員は正会員に限る。役員の任期は <u>2年</u> とし、連続 3 選を認めない。
内規 7	本会の事務局は、 <u>当分の間</u> 神戸大学経営学部内におく。	本会の事務局は、 <u>2026 年 3 月末まで</u> 神戸大学経営学部内におく。
第 11 条	評議員は、 <u>総会において</u> 正会員の中からこれを互選する。選挙方法については、内規において別にこれを定める。評議員は、評議員会を構成して会務を処理する。評議員会の決議は、出席者の過半数により、可否同数のときは議長がこれを決定する。	評議員は、 <u>総会において、または総会後 1 ヶ月以内に</u> 正会員の中からこれを互選する。選挙方法については、内規において別にこれを定める。評議員は、評議員会を構成して会務を処理する。評議員会の決議は、出席者の過半数により、可否同数のときは議長がこれを決定する。

第 9 条改正理由)

事務局の改組に伴い、これまでの学会事務局が担ってきた役割を評議員が分担して担う必要が生じて負担が増したため、任期を減ずる必要があるため。

内規 7 補足説明)

改正理由は、神戸大学経営学部内に置き続けることが困難になったため。

2026 年 4 月以降は、外部委託を含め、新評議員会で詳細を決定し、会則の改正を翌年行う。

第 11 条改正理由)

総会において実施することはスケジュール上困難になりつつあること、および会員規則の改正がある場合には総会後に評議員選挙を行うほうが望ましいであること。

以上

資料9

今年度の評議員選挙について

今年度の評議員選挙は、オンラインシステムを使って行う。業者（i-Vote）への委託費として15万円程度の費用がかかる見込みである。

システム整備、学会規則の改正などを受けて、9月半ばに実施する予定である。

学会員（正会員）は、事務局が学会ホームページにアップする被選挙権者リストを見て投票する人を決め、システムの画面でその人を検索して投票する（東西各5名ずつ）。詳細は全国大会で配布する説明用のビラを参照していただきたい。

選挙管理委員

手嶋宣之（専修大学）

佐々木隆文（中央大学）

山口聖（甲南大学）